

タスマニアで学んだこと
～異文化交流、及び産業と自然の調和について～

香川県立丸亀高等学校
普通科1年 田村樹

僕は、英語力の向上や異文化交流、そして、タスマニアの産業と環境保護の両立について興味があり、このタスマニア派遣事業に応募しました。滞在中は、ホバート市のウェリントン山のふもとにある家にホームステイをしました。窓から見えるダーwent川(ダーwent川)の美しい景色は、今でも僕の記憶に鮮明に残っています。

英語でのコミュニケーションは予想以上に大変で、特に「L」と「R」の発音が違うだけでも相手に全く伝わらないことがあり、戸惑うことも多くありました。しかし、ホストファミリーや現地の学生たちと英語で交流するのはとても楽しい経験でした。カレッジでは、世界中から来ている留学生とも英語で話す機会があり、英語が異なる国の人々とコミュニケーションをとるための重要なツールであることを実感しました。この経験を通じて、英語を話すことに自信を持てるようにはなりましたが、もっと詳しく話をしたかったというもどかしさも残りました。帰国後はさらに英語の勉強を進め、自分の英語スキルを向上させたいと思います。

現地では、ワイメアハイツ小学校とホバートカレッジで、香川県の伝統的な食べ物の紹介をしたり、けん玉の技を披露したりする機会がありました。生徒の皆さんはとても積極的に参加してくれて、カレッジのイタリア人留学生が、けん玉の玉を剣に刺す技を一度で成功させた瞬間には、皆で盛り上がりました。こうした異文化交流を通じて、今後もタスマニアや他の国の人々が日本に興味を持ってくれたら嬉しいです。

タスマニアの産業についても調べました。タスマニアは一次産業が中心ですが、観光業も成長しています。この派遣事業を通じて、特にこの観光業について理解が深まりました。例えば、休日にホストファミリーがウェリントン山の山頂へ連れて行ってくれましたが、そこは、ホバート市が一望できる人気のスポットであるにも関わらず、小さな展望台しかなく、商業施設は一切ありませんでした。また、ボノロング野生動物保護区では、昔からの自然環境が守られ、野生動物たちが大自然の中で暮らしていました。そこでは、タスマニアンデビルやウォンバット、カンガルーを間近で見たり、傷ついた野生の鳥を手術している様子を見学したりすることができました。このように、タスマニアでは観光地を過度に開発せず、自然の姿をありのまま保つことで、その価値を高めています。

また、国民全体的に、環境保護への取り組みが活発であることも分かりました。僕が訪れた店では、ほぼ100%土に還るレジ袋が使用されていました。さらに、ホストファミリーや現地の人々との生活を通じて、夜の8時までに寝る習慣があったり、雨水をためて生活用水に活用したりするなど、電気や水の節約に繋がるようなライフスタイルが浸透していることも感じました。

これらのことから、タスマニアでは国民の環境意識が非常に高く、そのことが産業と環境の両立を可能にしていると考えられます。

今回の派遣事業は、タスマニアの自然と文化に触れ、改めて日本の文化についても再認識する貴重な経験となりました。このような素晴らしい機会を与えてくださったすべての関係者の皆さんに、心から感謝しています。本当にありがとうございました。



▲7月31日カレッジでけん玉を紹介している様子